

グアムの概要

- 正式名称：アメリカ合衆国準州グアム
United States of America (Guam)
- 首都：ハガニア
- 人口：約 15 万 5000 人
- 面積：約 549km²
- 人種・民族：チャモロ人、フィリピン人、アメリカ人、その他
- 宗教：キリスト教
- 言語：英語、チャモロ語
- 通貨：米ドル
- 時差：+1 時間（グアムが正午のとき、日本は午前 11 時）
- 歴史：

サイパンの概要

- 正式名称：北マリアナ諸島米国自治連邦区
The Commonwealth of the Northern Mariana Islands
- 首都：ススペ
- 人口：約 6 万 9000 人
- 面積：約 477km²
- 人種・民族：チャモロ人、フィリピン人、中国人、その他
- 宗教：キリスト教
- 言語：英語、チャモロ語、カロリン語
- 通貨：米ドル
- 時差：+1 時間（サイパンが正午のとき、日本は午前 11 時）
- 歴史：16 世紀にマゼランによって発見され、スペインの支配下に置かれた。第一次世界大戦以降は日本の統治領。第二次世界大戦後はアメリカの統治を経て、現在は自治政府を樹立して北マリアナ諸島に一員になっている。

テニアン島の概要

- 正式名称：北マリアナ諸島米国自治連邦区
The Commonwealth of the Northern Mariana Islands
- 人口：約 2600 人

- 面積：100 平方 km
- 宗教：キリスト教
- 言語：英語、チャモロ語、カロリン語
- 通貨：米ドル
- 時差：+1 時間（テナンが正午のとき、日本は午前 11 時）
- アクセス：サイパンよりセスナ機で約 10 分。高速フェリーは現在運休中。
- 歴史：16 世紀にマゼランによって発見され、スペインの支配下に置かれた。第一次世界大戦以降は日本の統治領。第二次世界大戦後はアメリカの統治を経て、現在は自治政府を樹立して北マリアナ諸島に一員になっている。

ロタ島の概要

- 正式名称：北マリアナ諸島米国自治連邦区
The Commonwealth of the Northern Mariana Islands
- 人口：約 3500 人
- 宗教：キリスト教
- 言語：英語、チャモロ語
- 通貨：米ドル
- 時差：+1 時間（ロタが正午のとき、日本は午前 11 時）
- アクセス：グアム、サイパンから航空便があり。飛行時間約 30 分。
- 歴史：16 世紀にマゼランによって発見され、スペインの支配下に置かれた。第一次世界大戦以降は日本の統治領。第二次世界大戦後はアメリカの統治を経て、現在は自治政府を樹立して北マリアナ諸島に一員になっている。
サイパンやグアムに比べて戦争の傷跡が少なく、現在は農業、牧畜、観光による収入が中心。

グアム、ロタ、サイパン、テナンの戦い

今回の「スーパーマーケット見聞録」は、フィリピンに続き、マリアナ諸島 4 島（グアム、ロタ、サイパン、テナン）めぐりを計画した。

情報を集めようと、最近のグアム、サイパンの旅行ガイドを読んでみたが、「第 2 次世界大戦」、「太平洋戦争」についての説明が殆どのない。戦争が残した傷跡の写真も少なくなっている。アジアのスーパーマーケットばかりを見て歩いてきたが、そこはかつて「戦場であった」。そのことについてあまりにも無知であったことを反省する。

日本本土に初めて空爆を行ったアメリカの B 2 9 が最初に飛び立ったのは、四川 成都の空港であることも知らなかった。

せっかくアジアを訪れているのであるから「何か伝えなくては」という使命感に駆られる。「真珠湾攻撃」から始まった太平洋戦争から 71 年。時が過ぎてもう忘れ去られようとしている。決して風化させてはならない。

「太平洋戦争」の研究

太平洋戦争の主な12の戦闘

参考文献 「図解 太平洋戦争」(西東社)

①「真珠湾攻撃」(1941年12月8日)

日本時間1941年12月8日、日本海軍機動部隊は、ハワイ真珠湾に停泊中の米太平洋艦隊を壊滅すべく、2次に渡り攻撃を敢行した。これにより、米太平洋艦隊は壊滅状態に追い込まれた。その時の日本連合艦隊司令官は、戦争に反対したとされる「山本五十六」であった。

当時のアメリカ大統領ルーズベルトは、「世界大戦への不介入」を公約に挙げていたが、日本の真珠湾攻撃により、「リメンバー・パールハーバー」と力説し、アメリカ国民の世論を味方にして第二次世界大戦に参戦する。

②「マレー・シンガポール作戦」(1941年12月8日～1942年2月15日)

あまり知られていないが、真珠湾攻撃と並行して、日本陸軍はマレー半島への上陸を開始。第25軍を中心とした日本軍は、12月8日に半島各地の防衛陣地を破竹の勢いで突破しながら南下し、2月15日にシンガポール占領に成功した。シンガポールはイギリス領であったため、それにより、イギリスにも宣戦布告したことになる。

③「フィリピン攻略戦」(1941年12月22日～1942年5月7日)

真珠湾攻撃から14日後の1941年12月22日、日本軍はフィリピン ルソン島に上陸。翌年1月2日にマニラを占領した。さらに、米比軍の立てこもるバターン半島への2回にわたる攻撃によってこれを陥落し、多数の捕虜を得た。「バターン死の行進」は有名。当時フィリピンに駐留していたアメリカの総司令官は、「ダグラス マッカーサー」であった。マッカーサーはフィリピンを去ってオーストラリアへと避難した。

④「ビルマ攻略戦」(1942年1月20日～1942年5月15日)

マレー作戦が順調に推移したことから、日本軍は「援蒋(蒋介石)ルート」(連合軍の中国軍に対する物資援助ルート)遮断を狙ってビルマに侵攻。現地住民の協力もあり、順調に進撃を続け、1942年5月15日にビルマ全土の制圧に成功する。

当時ビルマの民衆は、「ビルマ独立義勇軍」を結成して、日本軍を歓迎していた。

さらに、日本軍は1942年1月10日から「蘭印(インドネシア)攻略戦」を敢行する。インドネシアは当時オランダ領であり、インドネシアには石油などの豊富な天然資源が眠っていた。アメリカから石油を断たれた日本は、喉から手がでるほど欲しかった。

⑤「ミッドウェー海戦」(1942年6月5日)

真珠湾攻撃で壊滅できなかった米機動部隊を攻撃すべく、連合艦隊はミッドウェーに進出。だが、その動きは、「暗号解読」によって米軍には筒抜けであった。空母4隻を一挙に失う壊滅的な打撃を被ってしまう。

大本営は、「ミッドウェー海戦の大敗」をひたすら隠し、「日本軍有利」の情報を流し続けた。正しい情報を国民に伝えない。ここから日本は転がる石のように敗戦へと突き進んで行くこととなります。

⑥「ガダルカナル島攻防戦」(1942年8月7日～1943年2月7日)

「ミッドウェー海戦の大敗」を機に、戦局は大きく変わってきた。ラバウル防衛のため、海軍が築いたガダルカナル島の飛行場を1942年8月に米軍が占領。日本軍はこれを奪回しようと兵力を投入するが、すべて失敗に終わる。

日本軍が築き上げたガダルカナルの新しい飛行場を米軍は、完成を見計らって簡単に占領する。ここに、アメリカのしたたかさがある。

設営隊の大半はジャングルの中に逃げ込んでゲリラ戦を行った。

⑦ニューギニア戦線(1942年8月18日～1945年8月15日)

陸路よりポートモレスビー攻略を目指した日本軍であったが、この作戦は失敗に終わる。さらに、これから連合軍の反撃が開始され、日本軍はニューギニアの拠点を次々に失う。1943年4月18日 帝国連合艦隊長官 山本五十六 ブーゲンビル島で戦死

⑧インパール作戦(1944年3月8日～1944年7月5日)

ビルマに展開していた第15軍は、英印軍の拠点であるインパール攻略作戦を開始。しかし、間もなく前線への補給は途絶し、将兵は飢餓の中の戦いを強いられる。

⑨サイパンの戦い(1944年6月15日～1944年7月7日)

1944年6月15日、米国は日本本土を空襲圏内に収めるため、マリアナ諸島のサイパン島に上陸。日本軍守備隊は、圧倒的戦力の米軍の前に玉砕し、多くの住民が戦火に巻き込まれて犠牲となった。

グアム島の戦い サイパンを占領した米軍は、1944年7月21日、5万5千人の兵力で、グアム島へ上陸しました。28日に第29師団長の高品中将の戦死によって、組織的な戦闘は終わりを告げました。サイパン島のような「玉砕突撃」はおこなわれませんでした。

テニアン島の戦い テニアン島には、日本陸軍4000人、海軍4500人、一般日本人1万3000人、朝鮮人3000人がいました。グアムより3日遅れて、24日午前7時に開始されました。日本軍は数度にわたり反撃しましたが、失敗し玉砕した。

ロタ島の戦い 太平洋戦争中は同島では地上戦は行われず、周辺から孤立した状態に置か

れた。1944年になると守備隊が増強され、最終的に海軍2000名、陸軍950名に至る。

1945年9月4日、日本海軍1853名、日本陸軍947名がロタ島を離れた。戦没者は海軍152名、陸軍84名だった。

⑩レイテ決戦（1944年10月20日～1944年12月20日）

1944年10月、米軍はフィリピンのレイテ島に上陸。日本軍はレイテ島で米軍に決戦を挑む。しかし、レイテ沖海戦で連合艦隊は敗退し、陸軍もレイテ島にて、大被害を被ることになる。ダグラス・マッカーサーは再びレイテに上陸する。

⑪硫黄島の戦い（1945年2月19日～1945年3月17日）

1945年2月19日、米軍は日本本土空爆の中継基地を築くべく、硫黄島に上陸。激戦が展開されたが、3月17日に日本軍守備隊は玉砕した。米軍も多大な被害を受け、人的損害は日本側を上回っていた。

⑫沖縄決戦（1945年4月1日～1945年6月23日）

1945年4月1日（アメリカではエイプリルフール）、米軍は沖縄本島に上陸。日本軍は第32軍が守備にあたったが、6月23日の司令官自決をもって組織的抵抗は終結した。沖縄の民間人は、14万人を超える犠牲者を出した。

1945年8月6日、広島に原子爆弾が投下される。

1945年8月14日、御前会議で「ポツダム宣言受諾」

1945年8月15日、正午、天皇陛下の玉音放送。日本軍無条件降伏。

『勝てば官軍』、『負ければ賊軍』

「山本五十六」半藤一利著 文芸春秋によれば、

「1940 年末頃から海軍中央には、アメリカや、香港、シンガポールを支配する英国を駆逐して東南アジア・太平洋諸島にまで日本の覇権を広げようとするグループが主導権を握り始めた。その人たちは、旧薩長出身者を中心と人々でした。かれらはいわゆる『官軍』の出身でした。

いっぽう、1945 年の夏に、降伏という形で戦争を終わらせてくれた首脳たちのうち、鈴木貫太郎（首相）は関宿（千葉県）、米内光政（海軍大臣）が盛岡、井上成美（海軍次官）が仙台の出身です。いずれも『賊軍』とされた東軍藩の出身者なのです。

ここに、幕末から続く藩閥の力学が、80 年をへた第二次世界大戦直前まで生きていた証を見ることができるのではないのでしょうか」（文中）

極論だが、「官軍」が戦争を引き起こし、「賊軍」が戦後処理を行うという皮肉な結果となった。

「勝てば官軍」「負ければ賊軍」といわれるが、「勝った官軍」のその後の行動には、危険が秘めていることに気付かねばならない。

イラク戦争終結

2011 年 12 月 15 日 アメリカのオバマ大統領は、「イラク戦争の終結」を宣言した。

アメリカ軍 4500 人、イラク国民 12 万人に犠牲のもと、9 年に渡ったイラク戦争の意義はいったい何であったのか。「官軍の暴走」としか考えられません。

米英はいつも「官軍」です。「官軍の力学」には注意しなくてはなりません。

三国同盟を結んで戦争に負けた、ドイツ、イタリア、日本は「賊軍」です。

「賊軍には賊軍」の役割が問われる時であると考えます。

「グアムの戦い」の要約

<http://ja.wikipedia.org/wiki>

グアムの戦い（Battle of Guam）は、太平洋戦争（大東亜戦争）におけるマリアナーパラオ戦役の戦いの一つ。サイパンの戦いに次ぐ死傷者を出した。

グアム島はマリアナ諸島中の島で、大戦開始前にはアメリカの統治下にあったが 1941 年 12 月 10 日に日本軍の攻撃によって奪われていた。

日本軍は 2 年をかけて強固な防御陣地を構築していた。

アメリカ軍は、まず戦艦による艦砲射撃と空母艦載機及び陸上爆撃機（B-29）による爆撃を行った。予定では 6 月 18 日には部隊を上陸させるはずであったが、高射砲及び巡洋艦から取り外した高角砲によってアメリカ軍機を執拗に攻撃するなど日本軍側は頑強な抵抗を繰り返した。

日本軍の作戦計画では、サイパンと同様に水際作戦で侵攻を食い止めようとしたため、揚陸中のアメリカ軍に対し重火器等で激しい攻撃を加え、20 両の水陸両用装軌車を破壊したが、それでも物量に勝るアメリカ軍の侵攻を食い止めることはできなかった。

しかし上陸初日、米軍の進軍はわずか 180m でしかなかった。

激しい白兵戦や日本軍の「バンザイ突撃」を撃破した末、米軍はかろうじて進撃を続けた。

7 月 28 日には師団長の「高品彪中将」が戦死。この戦いにおける組織的抵抗は収束した。アメリカ陸軍は北部に達し、島の完全占領を成し遂げた。

それでも一部の生き残った兵士はゲリラ戦を行って執拗に抵抗を行う。

グアムの占領を成し遂げたアメリカ軍は、本島の飛行場を直ちに整備し、サイパン島等とともに日本本土への戦略爆撃の拠点とした。

グアムでの戦いが終結した後、横井庄一伍長ら数名の日本兵が終戦を知らずにジャングルに潜伏し続けていた。

1 人生き残った横井は 1972 年（昭和 47 年）にグアム島住民に発見。保護された後、日本へ帰国している。



アメリカ軍上陸地



対岸の景色



ハगतナ トーチカ



旧日本軍 トーチカ



入口



内部



旧日本軍 地下壕



内部の地図



入口



スペイン時代の大砲



説明版



太平洋戦争記念館



投降する日本兵



高品中将



日本側展示場



横井庄一さん



アメリカ軍展示場



バンザイ攻撃の丘



旧日本軍地下壕

「ロタの戦い」の要約

ロタ島 (Rota Island) は、アメリカ合衆国内の自治領、北マリアナ諸島の島のひとつである。北にはテニアン島 (Tinian Island)、南にはアメリカ合衆国準州のグアム島 (The Territory of Guam) がある。

面積は 85km² で、他のミクロネシアの島々と同じくマリンスポーツやスキューバ・ダイビングなど観光が主な産業であり、日本人旅行者も多く訪れる。

歴史的にはスペイン、次いでドイツに統治された後、1914 年に大日本帝国(以下日本)が赤道以北の南洋諸島を占領したことにより支配権は日本に移り、1920 年には国際連盟の委任統治領となる。

ロタ島はサイパン、テニアンに比べ島の開拓が遅れ、1934 年当時でも在住する日本人はわずか 1000 人余りであった。それでも 1935 年 12 月に製糖工場が完成し、砂糖の生産が開始された。しかし、砂糖の生産はうまくいかず、製糖工場は三年余りで操業停止してしまう。

太平洋戦争中は同島では地上戦は行われず、周辺から孤立した状態に置かれた。

1944 年になると守備隊が増強され、最終的に海軍 2000 名、陸軍 950 名に至る。

陸海軍総指揮官は今川茂男陸軍歩兵少佐だった。

ロタ島は日本本土空襲に向かう B-29 爆撃機の機数・方位を無線で警告する役目を担った。設営隊がいたため、大工、鍛冶屋、理髪、縫製などの専門家に事欠かず、演芸部も編成され、毎日のように空襲を受けながらも比較的平穏な日々が続いた。

1945 年 9 月 2 日、ステント米海兵隊大佐が率いる駆逐艦が投錨し、アイオワ級戦艦「ミズーリ」で行われた日本の「降伏調印式」より 1 時間遅れた午前 11 時、局地降伏調印式が行われた。

9 月 4 日、日本海軍 1853 名、日本陸軍 947 名がロタ島を離れた。戦没者は海軍 152 名、陸軍 84 名だった。

戦後は国際連合によるアメリカ合衆国の信託統治下となり、1978 年以降はアメリカ合衆国の自治領となる。

ロタ島は、地上戦が行われていなかったため、日本統治時代を思わせる赤煉瓦造りの製糖工場跡や太平洋戦争時の旧日本軍砲台跡などが今なお残されている。

進むアメリカ合衆国化の現状

サイパン、テニアン、ロタの北マリアナ諸島米国自治連邦区 (The Commonwealth of the Northern Mariana Islands) は、2014 年から、アメリカ合衆国準州 (United States of America) に変わる。2009 年当時のブッシュ大統領は、北マリアナ諸島を、5 年間の移行猶予をもってアメリカ合衆国準州にすることに署名している。

1014 年以降は、サイパン、テニアン、ロタの島が、アメリカ合衆国の法律が適用される。そこに住んでいる外国人や不法労働者、カジノ、風俗営業などは、「テロ対策」名のもとに、今後どうなるか分からない。空港のセキュリティの強化も図られている。現地でも不安が広がっている。

アメリカ議会は、海兵隊の沖縄からグアムへの移転費用の予算をカットした。

日本では、沖縄の基地移転問題がもたついているが、アメリカではすでに移転の準備が着々と進められている。テニアン島やロタ島にアメリカの軍事基地ができることが現実化し始めた。現地の話によると、ロタ島ではすでにレーダー基地建設の話がある。

かつて、日本軍が飛行場や軍事基地を作り、それをアメリカが破壊し、またそこにアメリカが軍事基地を作る。

この平和なロタ島に軍事基地は似合わない。



ロタ島行きセスナ



ロタ島



タガストーン遺跡



戦争記念館



記念碑



戦争記念館入口



戦争記念館内部





神威洞



旧野戦病院



鍾乳洞内部



旧日本軍の砲台



テニアン島の戦い

参考資料 <http://ja.wikipedia.org/wiki/>

テニアンの戦いとは、太平洋戦争中の1944年7月24日から1944年8月2日の間にテニアン島で行われた日本軍守備隊とアメリカ軍との戦闘をいう。

テニアン島は第一次世界大戦後、日本の委任統治領となり、第二次世界大戦前は多くの日本人が入植し、サトウキビ栽培などに従事していた。一方、この島の戦略的価値を見出した日本海軍は同島に飛行場を建設。

当時南洋最大といわれた「ハゴイ飛行場」が完成する。

日本軍は同島のハゴイ飛行場を航空基地として使用していたが、陸上兵力が少なかったため、満州から松本第50連隊（連隊長 緒方敬志大佐）を移駐させた。

6月19日、20日の「マリアナ沖海戦」で日本機動部隊を撃退した米軍は7月8日、サイパン島の攻略を完了、それに続いてグアム島、テニアン島の攻略を開始した。

米軍は第2海兵師団の上陸用舟艇100隻以上を島の南西部、テニアン港前方に一斉に前進させた。しかし、米軍上陸部隊が海岸から200m程に接近した瞬間、一斉に重砲が攻撃を開始。米軍を撃退した。

日本軍の海岸砲台は戦艦コロラドに22発の命中弾を与え、駆逐艦ノーマン・スコットも命中弾を浴び、艦長以下多数が死傷した。しかしこれは米軍の陽動作戦であった。

米軍第4海兵師団は、上陸用舟艇約150隻で、陽動作戦のため手薄となった北西部のチュー一口海岸に上陸した。水際に配備された第3中隊と海軍警備部隊は、米軍の砲爆撃と水際の戦闘のためほとんど全滅し、米軍は日没までに上陸させた。この上陸での、米軍死傷者は240名（うち戦死15名）であった。

そして、24日の深夜に日本軍による反撃が開始されたが、米軍の猛烈な弾幕射撃と照明弾による妨害により、日本軍の進撃が遅れた。それにより、調整の取れない攻撃を行い、約2,500名にも及ぶ損害を受けて反撃は失敗に終わった。



旧日本軍滑走路



空港前の展示物



タガストーン遺跡



記念碑



善光寺の表示



松本第五十連隊慰霊碑



市場事務所跡



米軍上陸地 チェルビーチ



旧日本軍トーチカ



通信基地跡





旧日本軍トーチカ



第一航空隊司令部跡



原爆搭載場所

広島型



長崎型

テニアン島の戦い

参考資料 <http://ja.wikipedia.org/wiki/>

テニアンの戦いとは、太平洋戦争中の1944年7月24日から1944年8月2日の間にテニアン島で行われた日本軍守備隊とアメリカ軍との戦闘をいう。

テニアン島は第一次世界大戦後、日本の委任統治領となり、第二次世界大戦前は多くの日本人が入植し、サトウキビ栽培などに従事していた。

一方、この島の戦略的価値を見出した日本海軍は同島に飛行場を建設。

当時南洋最大といわれた「ハゴイ飛行場」が完成する。

ハイゴ飛行場跡

以前は空から4本の飛行場が空から見えましたが、今は樹木に覆われて2本しか見ることができない。戦後米軍によって拡張され、現在はアメリカ軍の航空機の発着訓練に使用されている。

日本軍は同島のハゴイ飛行場を航空基地として使用していたが、陸上兵力が少なかったため、満州から松本第50連隊（連隊長 緒方敬志大佐）を移駐させた。

慰霊碑

生き残った松本第50連隊の人々が建てた慰霊碑。「善光寺」の文字が見える。

慰霊団も年々減ってきている。

6月19日、20日の「マリアナ沖海戦」で日本機動部隊を撃退した米軍は7月8日、サイパン島の攻略を完了、それに続いてグアム島、テニアン島の攻略を開始した。

米軍は第2海兵師団の上陸用舟艇100隻以上を島の南西部、テニアン港前方に一斉に前進させた。しかし、米軍上陸部隊が海岸から200m程に接近した瞬間、一斉に重砲が攻撃を開始。米軍を撃退した。

日本軍の海岸砲台は戦艦コロラドに22発の命中弾を与え、駆逐艦ノーマン・スコットも命中弾を浴び、艦長以下多数が死傷した。しかしこれは米軍の陽動作戦であった。

米軍が上陸したチェーロビーチ

前はビーチに米軍が上陸した時の写真が展示してあったが、台風で流されてしまって現在はない。地元住民のビーチとして現在使われている。

地元の人々がバーベキューの後片付けをしていた。

米軍第 4 海兵師団は、上陸用舟艇約 150 隻で、陽動作戦のため手薄となった北西部のチュエーロビーチに上陸した。水際に配備された第 3 中隊と海軍警備部隊は、米軍の砲爆撃と水際の戦闘のためほとんど全滅し、米軍は日没までに上陸させた。この上陸での、米軍死傷者は 240 名（うち戦死 15 名）であった。

チュエーロビーチの日本軍トーチカ

米軍により生き埋めにされたトーチカ。戦後何十年かして掘り起こされた。中には 4 名の日本の兵士が折り重なるように残されていたという。

そして、24 日の深夜に日本軍による反撃が開始されたが、米軍の猛烈な弾幕射撃と照明弾による妨害により、日本軍の進撃が遅れた。

それにより、調整の取れない攻撃を行い、約 2,500 名にも及ぶ損害を受けて反撃は失敗に終わった。

日本海軍第一航空艦隊司令部跡

当時は樹木に覆われていて空からはなにか確認できなかったとのこと。近くには、通信基地、雨水を溜めた貯水槽が残っている。

ガイドのシボアさんは、アメリカ軍が占領した後の写真を指さし「日本のエンジニアは凄い、70 年たっても建物は変わっていない」という。確かに占領当時の写真と建物の残がいと比較しても、鉄骨 1 本見ても当時と変わっていない。

「それは、しっかりと手入れして保存してくれているテニアンの人々のおかげです」と感謝の意を伝える。公園は芝がしっかりと刈り取られ整備されている。

ありがたいことである。

映画「山本五十六」を見る

12 月 23 日より、「山本五十六」が上映あれている。時間が取れたのでさっそく見に行く。映画の始まりは、「戊辰戦争」で薩長軍に焼かれている、新潟県長岡市の様子から始まる。長岡は山本五十六の出身地であり、「賊軍」側であった。

内容は「真珠湾攻撃に至るまでの経緯」「真珠湾攻撃」「ミッドウェー海戦」「ガダルカナルの戦い」「ニューギニアの戦い」「山本五十六戦死」までを描いている。サイパン、グアム、テニアンの戦いはその後です。

山本五十六は、「戦争に反対した人」「早めの講和に持ち込もうとした人」として描かれている。この戦争で、軍民合わせて、約 300 万人の尊い命が失われています。

その約 9 割の 2700 万人が、山本五十六の死後に失われた命です。

アメリカ軍テニアン市街を占領

日本軍の攻撃を撃退したアメリカ軍は、25日、第2海兵師団の残余を上陸させ、南下を開始した。日本軍は新防衛線を構築するとともに、民間人の中から16歳から45歳までの男子、約3,500名を集め民間義勇隊6個中隊を編制し、戦闘に協力させた。だが、7月30日までにアメリカ軍は防衛線を突破し、テニアン市街を占領した。

8月2日、緒方連隊長は軍旗を奉焼、残存部隊と民間義勇隊等約1,000名が、アメリカ軍に対し突撃を敢行した。アメリカ軍は、機関銃などにより猛烈な防御砲火をあたえたため、日本軍に死傷者が続出し、緒方連隊長は後退中に戦死した。

結果、日本軍の玉砕という形で、テニアン島における組織的戦闘は8月3日の夜明けに終結した。

その後も生存者は何人かの集団となって米軍施設などを破壊して遊撃戦を続けたが、テニアン島は隆起珊瑚礁からなる平坦な島で、遊撃戦には不向きな地形であった。

戦後、テニアン島はB-29の基地として整備され、アメリカ軍による日本本土などへの爆撃基地に使用された。なお、終戦後の1945年8月下旬、生存者の最上級者であった榊谷中尉以下は投降し、テニアンの戦いは完全に終結した。

松本50連隊の生き残りは、テニアン島の南の4つの島の守備隊120名で、各島30人ずつで終戦まで無傷で生き残った。

終戦日に昭和天皇の玉音放送をラジオで聞き、全員アメリカ軍に白旗上げて武装解除、戦後グアム島の捕虜施設に2年半おり、その後日本に帰国し、2000年頃まで全員長野県内で生きている。

テニアン島守備隊長の緒方大佐は玉砕後、1階級上げて少将に昇進している。

テニアン島では日本軍守備隊側が民間人の安全に配慮した事、民間人が軍と共に自決する行為を戒めた（角田海軍中將が「軍と共に玉砕する事はないのですよ」

と説明を行ったとも言われている）事から、『サイパンの戦い』で発生した民間人の集団自決はあまり見られなかったと言われている。

「命を救う人」「命を粗末にする人」

映画「太平洋の軌跡」 大場栄大尉 19カ月の「名誉ある戦い」で紹介された、大場大尉は、その後、テニアン島で降伏の説得にあたっている。

2009年8月NHKで放送された「証言記録 市民たちの戦争—樂園の島は戦場になった～テニアン島」によれば、現地でサトウキビなどを営んでいた居留民約15,000人のうち、約1,500人がこの戦闘で死亡し（軍民合わせた死亡は約1万人）、その中の相当の部分が「集団自決」で亡くなったと報道（生き残りの島民の証言）している。

それは、戦闘の直前に「海軍中佐が住民を学校に集め、『敵が上陸したら、皆さん死んでください、米軍に捕まったら残虐な行為で、性器をもがれるかもしれない』と言った」と証言（佐藤照男さん・76歳）している。ここでは、住民たちの生々しい証言があるが、太平洋の多くの島々で行われたといわれている日本住民の「集団自決」は、テニアンを含めて未だ十分には解明されていない。

サイパンの戦い

「サイパンの戦い」とは太平洋戦争（大東亜戦争）中、1944年6月15日から7月9日に行われたアメリカ軍と日本軍のマリアナ諸島サイパン島における戦い。

「ホランド・スミス中将」指揮のアメリカ軍第2海兵師団、第4海兵師団、第27歩兵師団の斎藤義次中将が、指揮する日本軍第43師団を潰滅させ、サイパン島を占領した。

マリアナ諸島がアメリカ軍の攻略目標に選ばれたのは新型爆撃機B-29が完成したことによる。マリアナ諸島が連合軍の手に落ちれば東京など日本本土が攻撃圏内に入るからである。本土が空襲圏内に入った場合制空権を失っている日本は戦争継続すら困難に陥り、ひいては民間人に大量の死者を出す事が予想された。そこで大本営は絶対国防圏を定め、海軍はマリアナ諸島に重装備を含んだ4万名以上の守備隊と、空母9を含む機動部隊を派遣した（あ号作戦）。

しかし制海権も失っている為輸送は困難を極め、歩兵第18連隊、第118連隊約1万名は輸送中敵の潜水艦の雷撃により戦地に辿り着く事なく戦死した。

主力の第43師団の輸送も潜水艦の攻撃によって難航し、兵員の揚陸は成功したものの重火器は不足状態だった。

サイパン島と米軍の進路 米軍はサイパン島西岸のコの字型の記号で示した6カ所から上陸した。大本営は、アメリカ軍はサイパンを襲わずパラオを襲うと予想し、パラオ方面の防衛力を増強した。

6月11日、アメリカ軍艦載機1,100機によるサイパン島に対する奇襲的な空襲が行われ、13日からは戦艦8隻、巡洋艦11隻含む上陸船団を伴った艦隊がサイパン島に接近、砲弾合計18万発もの艦砲射撃が開始された。これにより日本の陣地は半壊し、サイパン基地の航空機150機のすべてを失った。このサイパン島への侵攻は日本軍を驚かせた。

15日7時、アメリカ軍は上陸を開始した。

9時ごろまでに300以上の上陸用装軌車で海兵隊8000名がサイパン島の西の海岸に上陸。

日本軍は伝統の水際撃滅作戦をとり反撃を開始した。

ところがサイパン島の海岸は見晴らしが良い為水際撃滅は大して意味をもたず、更に空と海からの猛烈な砲爆撃に晒され守備隊は著しく消耗した。

結果は米軍2000人あまりを負傷させたものの独混47旅団、戦車第9連隊第4中隊などが全滅した。

日没までにはアメリカ軍は幅10km、奥行き1kmの橋頭堡を確保し19時までに海兵隊2万名以上の上陸が完了した。

上陸日当日の陸軍省・参謀本部では、いたるところで上陸日の夜、日本は水際作戦のため主力を海岸に結集し一斉に反撃を開始した。

しかし昼間の攻勢で部隊間の連絡は困難に陥り、戦力の掌握は不可能となっており、米軍の優勢な火力により2個大隊と横須賀第1陸戦隊はほぼ全滅した。

「あ号作戦」で出撃した日本機動部隊はマリアナ沖海戦で大敗を喫した。

2日間で艦載機400機を失い、帝国海軍航空部隊は無力化された。これによりマリアナ諸島の日本軍は救援の望みを絶たれた。組織的な反撃が不可能な程戦力が減少した為、斎藤中将は防御に適した島の中部の山岳地帯にある「タポチヨ山」に防御線を敷き洞窟を利用し抵抗した。

24日、大本営はマリアナ沖海戦の敗北の為サイパン島の放棄を決定した。

この時点で斎藤の指揮する第43師団が4000名、残りは2000名程度まで減少していた。重装備は戦車が僅かに3両で野砲は全損。食料、水、医薬品が欠乏し、負傷者は自決する他なかった。

それでも日本軍は断固として抵抗を続けた為、20日以来米軍の進撃は遅々として進まず、第27師団長「ラルフ・スミス少将」が更迭された。

25日、日本軍主力が防衛する島中央部において戦闘が開始された。

この頃になるとアスリート飛行場が運用可能になり、偵察機や爆撃機の使用が開始された。空からの援護もありアメリカ軍は防衛線を突破、占領地は島の70%に達した。

27日、日本軍第317大隊600名はアスリート飛行場奪回の為夜襲をかけたが、米軍に包囲され全滅した。7月7日、日本軍は完全に追い詰められた。斎藤中将は残存部隊約3000名に総攻撃を命じ、陸海軍による「バンザイ突撃」が行われた。

米軍は日本兵の捕虜からこの攻撃の情報を得ており、陣地を築いて待ち構えていた。この戦闘で米軍に死傷者658名の損害を与えたが、日本軍はほぼ全滅した。

翌日戦場は「死の谷」と呼ばれるほど、両軍の死体が累累と積み重なっていた。

南雲中部太平洋方面艦隊司令長官を始め指揮官など残りは自決し、少数は降伏したため、事実上サイパン島の日本軍は全滅した。

7月9日にターナー中将はサイパン島の占領を宣言した。



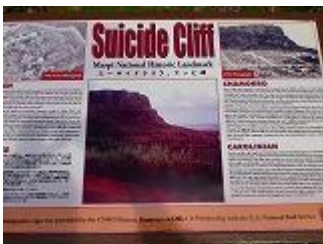
バンザイクリフ慰霊碑



バンザイクリフ



旧日本軍司令部跡



スーサイドクリフ



スーササイドクリフを見降ろす



なぜ、日本はサイパン陥落で戦争を止められなかったか。

参考資料「サイパンの戦い」山川出版 ノンフィクション作家 保坂正康

最高司令官 東條英機に欠けていたもの。

東條の私的な会話の中に、

「日本の長所は皆が命がけであり、死ぬことを何とも思わぬことである。敵の空母1艦に対して、我が1機の体当たりでほふることができるのが、日本の強みである」

「見方が苦しくて、四分六分と思う時は、実は五分五分だ。五分五分と思う時は、実は六部四分だ。とにかく敵がよく見えるものだ。」

以上のことから次のことが分かる。

①東條はサイパンの戦いを正面から見ていなかった。戦力の差を正確に捉えようとしていなかった。

②この時、「特攻作戦」はまだ考えられていない。それにもかかわらず、東條はすでに「特攻作戦」を考えていた。

③戦況についての判断がまったく主観的で、具体的根拠がない。単に数字で比率を出すのだが、それは単なる願望であった。

最後には、東條は「サイパン陥落くらいで大騒ぎするなんて、こんなのは蚊にくわれたようなものだ」と開きなおる。

結論は、東條に代表される軍事指導者が自らの面子のみで戦争指導を行い、国民一人一人の運命など全く考えていなかった。

サイパン戦で戦争を終結していれば、沖縄戦はなかったし、原爆投下もなかった。

「日清戦争」「日露戦争」の成功体験がそうさせたのであろう。

テレビ「坂の上の雲」でもあるように、日露戦争は本来日本軍は「負け戦」であった。

「勝てば官軍」「負ければ賊軍」、アメリカのような「官軍」には何を言っても分からない部分がある。「賊軍」には、戦争をやめさせる使命があると考えます。